

就学前の言語能力は、学校における読解力の向上と関係している



エビデンスによれば、読解力を上げるための指導を成功させるには、幅広い言語能力を目標にするべきである

本レビューの目的

このキャンベル・システマティック・レビューでは、就学前の諸能力と後の読解力の関係を調査している。本レビューでは、これらの関係を長期に渡って観察した64の研究から得られるエビデンスをまとめている。

言語理解（例：語彙と文法）と記号に関する能力（例：音韻に対する意識と文字に対する認識）の双方に関係する種々の能力は、言語を読み解く能力、ひいては学校における読解能力の発達にとって重要である。したがって、読解能力の指導は、広範な言語能力に焦点を当てれば上手くいく可能性が高い。

本レビューの対象

子どもの読解能力を支援するのに最善の指導を提供する方法を明らかにするには、実際に読解能力がどのように発達するかを理解することが必要である。この過程をより理解するために、本レビューでは、就学前から入学後にかけての言語および読解能力の発達の観察から得られたエビデンスをまとめる。本レビューにおける主要アウトカムは読解能力である。

読解能力の発達とその予兆を理解することで、読解能力を促進させてよく機能させるには、効果的な指導の必要な構成についての仮説を構築することに役立つ。この仮説はランダム化比較試験で検証することができる。

どのような研究が含まれるか

本レビューに含まれる研究は、就学前の言語および記号に関する能力と、後の読解力の関係を観察するものである。全部で64の研究が確認されており、その全てが分析対象である。しかし、そのうちの一部はかなり摩耗し、便宜的サンプリングを用いており、重要な研究およびサンプルの特徴について報告することができていない。

研究は1986年から2016年にわたり、ほとんどがアメリカ合衆国、ヨーロッパ、オーストラリアで行われた。



本レビューの最新度

本レビューの著者は2016年2月までに発表された研究を探した。このキャンベル・システマティック・レビューは2017年12月に発表された。

キャンベル・コラボレーションとは

キャンベル・コラボレーションは、体系的なレビューを発表する、ボランティアによる非営利の国際研究組織である。我々は、社会科学と行動科学におけるプログラムに関するエビデンスを要約し、質を評価している。我々の目的は、人々がよりよい選択と政策決定を行うことを支援することである。

このサマリーについて

このサマリーは、著者たち自身により、『キャンベル・システマティック・レビュー』2017年14号に掲載されたHanne Næss Hjetland, Ellen Irén Brinchmann, Ronny Scherer, Monica Melby-Lervåg による「後の読解力に関する就学前の兆候」(DOI 10.4073/csr.2017:14)に基づき作成された。本サマリーはTanya Kristiansen (キャンベル・コラボレーション) により作成、再構成、校正された。本サマリーの作成に対するアメリカ調査協会による経済的支援に関し付記する。



AMERICAN INSTITUTE FOR RESEARCH

本レビューの主な結果

記号に関する能力(例:音韻に対する意識と文字に対する認識)は、単語の理解を通して、間接的に読解力と関係している。言語に関する理解力は直接的に読解能力と関係している。記号に関する能力と言語に関する理解力は密接に関連していた。さらに、言語に関する理解力は年少者よりも年長の読み手においてより読解力にとって重要だった。

広範な言語能力が、読解力の発達において重要である

本レビューにおける調査結果から得られる示唆

この結果は、広範な言語能力が読解力の発達において重要であることを示している。この結果はまた、読解力を向上させるための指導を成功させるには、広範な言語能力を目標とするべきであることを示している。

これからの研究において、そのような能力群を目標とした指導の有効性を、ランダム化比較試験で検証しなければならない。加えて、将来的な長期に渡る研究において、信頼性、欠如したデータ、代表性の問題に取り組むべきである。